

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ① 人の顔がひとりひとりちがうように、人の心もさまざまです。
- ② ある人を感動させた本が、同じように別の人を感動させるとは限りません。
- ③ いろいろな本を読んでいるうちに、自分の心にぴったり合った、すぐれた本にめぐりあうことがあります。
- ④ わたしたちは、常に、そうした本を求める心がけが必要です。
- ⑤ すぐれた本のめぐりあいは、そういう、自分の心に合った本を求めている人たちにやくそくされた、大きなごほうびだと思えます。

- 1 この文章を読んで、著者がいちばん述べたいことが書かれている文はどれですか。①～⑤の中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。
- 2 この文章の要旨(文章でのべているだいたいなこと)として、もっともよいものを①～⑤の中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。
- ア すぐれた本のめぐりあいが、読書ではたいせつなものだ。
- イ 心に合った、すぐれた本を求めれば、ごほうびがやくそくされる。
- ウ 自分の心に合った、すぐれた本を求めて読書しなさい。
- エ 人の心はみな同じでない。自分に合った本のめぐりあいがたいせつなものだ。

- 8 -

三、

三、次の文の——のことは、どのことをよくわしく説明していますか。(例)にならって、そのことばを□の中に書きなさい。

- (例) つかえきして ばったり 前へ たおれました。
- 1 ちようど 町かどの 店の前に さしかかった ときの ことである。
- ちようど ばったり たおれました
- 2 まちにまった 新しい ぼくたちの 学校が いろいろ でき上がった。
- 新しい ちようど ぼくたちの 学校が いろいろ でき上がった。

四、次の文章の中から、中心になっている文をみつけ、その番号を□の中に書きなさい。

- ① ことばは、時代とともに変わっていきます。
- ② 日本語のものになっっているのは、何千年も前に祖先が作り出した「やまごことば」といわれるものです。
- ③ あるものは、そのまま今日も使われています。
- ④ しかし、あるものは形や意味を変えて使っているのです。

- 9 -

五、次の詩を読んで、下の問いに答えなさい。

山にありあまる季節のものを  
 遠く都の人におくりたいが  
 おくろうとすると何もない  
 山にいてこそ取りだすの字もいし  
 果もいし葉もいしが  
 今では都に何でもあつて  
 金もものをいうだけだという  
 それではいつそ  
 旧盆すきて穂立てをそろえた芽の穂の  
 ああ美しい銀の波のうちわたる  
 けさの山の朝風を  
 この封筒にいっぱい入れよう  
 香料よりもいいにおいの初秋の山の風を

- 1 「おくろうとすると何もない」とは、どんなことですか。その説明として、次のア～エの中からもっともよいものを一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。
- ア 山のもの、まだとれる季節になつていないから
- イ 都ではお金さえ出せば、なんでも手に入るというから
- ウ 山にはありあまるほどの季節のものがあから
- エ 山でとれるものは、都でもとれるようになつたから
- 2 「ああ美しい銀の波」とは、なんのことですか。その説明として、次のア～エの中からもっともよいものを一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。
- ア 風にそよぐ芽の穂
- イ いいにおいの初秋の山の風
- ウ 旧盆の穂立て
- エ 風にそよぐ草や木

- 10 -

3 この詩には、どんな気持ちが表示されていますか。次のア～エの中から、もっともよいものを一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

- ア 山の中は、とりたててないところがいい。だから、けさの山の朝風をおくつてやろう。
- イ 都には何でもあつて、山ではまだとれないので、香料よりもいいにおいの、初秋の山の風をおくつてやろう。
- ウ 都では、お金で何でも手に入るそうだから、せめてこの山の中の初秋の風をおくつてやろう。
- エ 山には季節のものがありあまるほどあるので、何をおくつたらよいかわからないから、この秋風を封筒に入れておくろう。

- 11 -